

和菓子作りの手ほどきを
受ける子どもたち



障子の開け開めを
練習する子どもたち



地域に学ぶ 伝統文化

京都市立洛央小学校・教諭

畑 和代

(平成12年3月教育学部卒業)

「地域ぐるみの学校づくり」の実際

現在私が勤務する学校は、明治2年に全国に先駆け、番組小学校として開校した5つの小学校(豊園・開智・有隣・修徳・格致)が統合され、平成4年4月に開校した学校です。

校区には、古くからの伝統産業の店も多く、仏具・扇子・呉服・京人形・染め・組紐・提燈など、京都ならではの店がたくさんあります。また、日本の三大祭の一つといわれる祇園祭の山

鉾三十二基のうち半数を有し、七月は祇園祭一色になります。

学校の特徴の一つとなつていいる伝統文化クラブは、『洛央いきいきコミュニケーション』(学校運営協議会)の発足を受け、『わくわく伝統文化』として、地域ボランティアの協力と指導のもとに活動しています。今年度の活動内容は、児童の希望をもとに、着付け・茶道・華道・組紐・手描き友禅・和菓子作りを予定しています。

「伝統文化クラブ」の活動

和菓子作りの体験では、「見た目もきれいだけど、何を想像して作っているのかを考えると、よりおいしくなった」「和菓子には、一つひとつ意味があることに驚いた。和菓子は奥が深いなあ」「和菓子から季節が感じられるなんてすごい」という声に代表されるように、お菓子という身近な食べ物から、日本の伝統文化の奥深さを知る機会となりました。

また、手書き友禅を体験したときには、「先生は同じ色でも薄い色濃い色を使い分けていてすごい」「絹にきれいな色が広がるのがとても刺激的でした。色の数には限りがあるが、混ぜると、どんな色ができるので、魔法みたいでした」と、自分たちの地域に生きづく伝統文化の良さを肌で感じることができました。

私も子どもと共に、発見や感動の多い時間を過ごしています。これからも、保護者や地域の方々の協力をいただきながら、子どもたちの瞳が輝く活動を計画していきたいと思ひます。

これ・あれ・ひと

地域を対象とした スポーツ活動

プリントショップA1win(アーウィン)

丹羽 敦巳

(平成16年3月大学院修了)

毎日フル活動

私は現在、父親が経営する会社の社員として、Tシャツなどへのオリジナルプリントやスポーツ用品の販売などをしています。その傍ら、スポーツ教室の運営や講演会活動、地域のスポーツクラブでのスポーツ指導、さらに今年度からはスポーツの家庭教師も新たに開始しました。スポーツの家庭教師は最近色々なメディアで取り上げられることも多く、今後広がりを見せていく業種であると期待しています。

体育の教師になるのが目標だった

私が奈良教育大学の大学院に入学した当初は、体育教師になることを目指していました。私自身は中学生の頃から本格的にスポーツに取り組みようになり、高校生のときには将来スポーツの指導者になりたいと考えていました。スポーツの指導者になるには体育の教師になって、クラブ活動の顧問になるのが近道だと考えていました。しかし、大学院在学中に地域のスポーツクラブでスポーツの指導を始めたことがきっかけで、学校だけではなくもっと広い視野を持ってスポーツの指導と普及に貢献していきたいという思いが強くなりました。

教師とは違う立場で

地域でスポーツ指導を行うには、まず資格の取得が先決だと考えました。取得できそうなスポーツの資格を調べ、すぐに取得の手続きを始めました。現在は日本体育協会認定の「スポーツリーダー」と日本スポーツクラブ協会認定の「子ども身体運動発達指導士」の資格を保有しています。奈良教育大学で一緒に学んだ同窓生の多くは教師となり、それぞれの学校で職務を果たしていると思います。私は彼らとは少し違う立場で、スポーツを通じ、社会の発展に貢献していきたいと考えています。



榛原西幼稚園での子ども身体運動発達指導士としての講演会